## 2012 韓国感染学会 推奨成人予防接種表

| 年齢 / 予防接種 | 19~29歳 | 30~39歳 | 40~49歳 | 50~64歳 | ≥ 65歳 |
|---|---|---|---|---|---|
| 破傷風-百日咳-ジフテリア | 初回追加免疫は Tdap で1回接種;<br>その次からはTdで 10年毎に追加免疫接種<br>(勧告レベルI) | | 初回 Tdap 接種ならびに 1および 6カ月後Td接種;<br>10年毎に追加免疫接種(勧告レベルI)<br>(Tdap は 65歳以下の大人に限って使用) | | |
| インフルエンザ | 毎年 1回(勧告レベルIII) | | | 毎年 1回(勧告レベルI) | |
| A型肝炎 | 2回<br>(初回および6 ~12カ月後)<br>(勧告レベルII) | 抗体陰性者に接種 (初回および 6 ~12カ月後)<br>(勧告レベルII) | | 高リスク群[ア] に, 抗体検査の後, 抗体陰性者に 2回接種<br>(初回および 6カ月後)<br>(勧告レベルII) | |
| B型肝炎 | 3回の初回シリーズ接種歴が不確かな時, 抗体陰性者に接種 (勧告レベルIII) | | | 初回シリーズの接種歴が不確実な高リスク群 [イ] に, 抗体陰性者に接種 (勧告レベルIII) | |
| 麻疹-ムンプス-風疹 | 高リスク群 [ウ] に,最小1回接種 ;<br>妊娠の計画がある女性は風塵抗体を検査する<br>(勧告レベルII) | | | | |
| 水痘 | 高リスク群 [エ] に, 抗体検査;抗体陰性者に2回接種<br>(初回および 1-2カ月後)<br>(勧告レベルII) | | | | |
| ヒトパピローマウィルス | 女性 (勧告レベルII) | | | | |
| 髄膜炎菌# | 高リスク群 [オ] に,1回又は2回 (勧告レベルII) | | | | |
| 肺炎球菌 | 高リスク群 [カ] に, 1回(勧告レベル I) | | | | 1回<br>(勧告レベルI) |
| 帯状疱疹# | | | | 1回 (勧告レベルU) | 1回 (勧告レベルIII) |

- 年齢条件を満たす全ての大人が対象
- 危険因子が存在する大人に推薦される
- 推薦にならない

**略字 :**

- Tdap=成人用三種混合 (破傷風/ジフテリア/百日咳)ワクチン。 Td : 成人用破傷風/ジフテリアワクチン。
- 0−15歳は小児科推奨に従う。
- 16−18歳は、別途に勧告がない場合19−29歳の推薦に従う (A型肝炎ワクチンは小児容量を使用)

**勧告レベル**

| | | |
|---|---|---|
| (I) | 最優先勧告− | 免疫化が死亡率を減少させ費用効果がよい。<br>大部分の国家で予防接種が推薦されている。 |
| (II) | 優先勧告− | 免疫化が死亡率を減少させるが、韓國での費用効果は知られていない。<br>大部分の先進諸国で予防接種が推薦されている。 |
| (III) | 勧告− | 免疫化が死亡率より罹患を減少させる効果がある。<br>費用効果は知られていない |
| (U) | 勧告保留− | 判断根拠が不足しているため勧告保留 |

ア) A型肝炎(高リスク群): 慢性肝疾患者,保育従事者; A型肝炎ウイルスへの露出の潜在的危険性をもつ医療従事者と研究室所労働者; 食品取扱人; A型肝炎流行地域への旅行者, またはその国で働いている人; 頻繁に血液製剤を受け取る人; 男性とセックスする男性;注射薬物使用者; 2週以内に 急性A型肝炎患者と接触した人。

イ) B型肝炎(高リスク群): 男性とセックスする男性; 二人以上のパートナーとの性的接觸が活発な人; ヒト免疫不全ウイルス (HIV) 患者; 注射薬物使用者; HBVキャリアの性的パートナー; HBVキャリアと接触する家族; 慢性腎不全患者; 慢性肝疾患者; 特に反復露出の可能性のある労働者; 発達障害者のための施設のクライアントやスタッフ。

ウ) 麻疹(はしか)、ムンプス(おたふくかぜ)、風疹 (リスクの大きいグループに推薦される):抗体検査 (特にはしかに対する) が可能であるが検査なしで接種することも費用面において経済的である。
高リスク因子 : 医療従事者 (抗体検査必要, 2回接種) 、 開発途上国への旅行者、免疫不全状態の患者の家族、 寄宿舎に住む学生。

エ) 水痘 : 高リスク群 の中で抗体検査の後免疫の証拠がないならば推薦される
高リスク因子 : 医療従事者,免疫不全状態の患者の家族 : 学校の先生と保育従業員 ; 学生;軍人; 矯正機関の居住者 ; 妊娠を計画している非妊娠女性 ; 子供と一緒に暮らしている青年および成人 ; 海外旅行者

オ) 髄膜炎菌(高リスク群) : 解剖学的または機能的無脾症の人; 補体欠損の患者; 軍人(特に新兵) ; 髄膜炎菌にさらされる研究所労働者;髄膜炎菌感染病の流行地域に住んでいる人,長い間元住民との接触が予想される旅行者またな停留者 ; 寄宿舎に住んでいる大学生。 解剖学的または機能的無脾症、 補体欠損、HIV感染の大人は2回接種の必要あり(初回および2カ月後)。 危険が高いままであると5年置きに蛋白結合ワクチンで再接種。

カ) 肺炎球菌(高リスク群) : 慢性肺疾患(喘息を含む); 慢性心血管疾患;糖尿病;慢性肝疾患; 慢性腎不全*;ネフローゼ症候群*;機能的または解剖学的無脾症*; 免疫不全状態の患者* (先天性免疫不全、 HIV感染、白血病、 リンパ腫、ホジキン病、多発性骨髄腫、 その他の腫瘍疾患、固形臓器移植) (造血幹細胞移植の患者には結合ワクチンを 3〜4回接種) ; 高用量副腎皮質ステロイドまたは免疫抑制薬品の長い使用*; 人工蝸牛移植者。 一次予防接種を受けた時が 65才未満であって5年以上経った65歳以上の人には再接種が必要である。 *5年後再接種が必要

## 疾患 (状況) による予防接種

| | 慢性肝臓疾患 | 慢性腎臓疾患 | 慢性肺疾患 | 慢性心血管疾患 | 糖尿病 | 抗癌の治療中である固形癌 | 固形臓器移植 | 造血幹細胞移植 | 移植以外の免疫抑制剤使用 | 無脾症 | HIV感染 CD4 <200/μl | HIV感染 CD4 ≥200/μl | 妊婦 | 軍入隊者 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| インフルエンザ | | | | | | | | | | | | | | |
| 肺炎球菌 | | | | | | | | | | | | | | |
| Td/Tdap | | | | | | | Tdap | DTaP/Tdap | | | | | | |
| A型肝炎 | | | | | | | a) | | | | | | | |
| B型肝炎 | | | | | | | | | | | | | | |
| 水痘 | | | | | | | | b) | | | | | | |
| MMR | | | | | | | | b) | | | | | | |
| 髄膜炎菌 | | | | | | | | | | | | | | |
| 帯状疱疹 | | | | | | | | | | | | | | |
| Hib | | | | | | | | | | | | | | |

- 疾患 (状況) によって必要性が強調されるワクチン
- 一般的な勧告基準によるワクチン
- 禁忌
- 推薦なし

a) A型肝炎予防接種は肝移植患者に示される
b) 宿主性移植片反応の所見がないならば移植の後24ヵ月後に接種を考慮

## 医療従事者に推薦する予防接種

| 医療職種と関係なしに 推薦する予防接種 (標準予防接種表参照) | |
|---|---|
| 破傷風−ジフテリア (Td) | 10年毎 一回 |
| ヒトパピローマウィルス | 10〜26歳の女性 |
| A型肝炎 | 30歳未満は検査なしに接種<br>30歳以上は検査後抗体が陰性の場合に接種 |
| **雇用と同時に, 抗体陰性の場合, 病歴で免疫を確認できない場合** | |
| B型肝炎 | 入職の際、抗体陰性の場合3回接種して1~2カ月 後に抗体確認→陰性の場合 3回再接種→1~2カ月 後に抗体検査を行いその時も陰性の場合再接種の必要なし |
| 水痘 | 1970年以後の出生者[ア]、勤務を開始する際に抗体検査 ; 陰性の場合 2回 (0、1~2カ月) 接種 |
| **雇用と同時に, 検査なしで接種** | |
| インフルエンザ | 毎年 |
| 破傷風−ジフテリアー百日咳 (Tdap) | 1回 |
| 麻疹-ムンプス-風疹 | 1967年以後の出生者[イ]、勤務を始める前、2回接種<br>(40歳 (1971年以後の出生者)(ア)以下で、勤務を開始する際にはしかの抗体検査 (イ); 陰性の場合 |
| **病院内で流行ている場合または実験室の勤務者に対し追加される予防接種** | |
| 髄膜炎菌 4価ワクチン | |

ア) 国内での年齢基準は研究されておらず、定めることが困難であるが 40歳とする。
イ) 2回 の予防接種を受けた醫務記録、はしか・おたふく風邪・風疹に対する医者の診断があれば 抗体検査や接種必要なし。

## 海外旅行者に推薦する成人予防接種

| ワクチン種類 | ワクチンが必要な地域 | 高危険旅行の特徴 | その他の参考事項 |
|---|---|---|---|
| **入国に必要なために投与する予防接種** | | | |
| 黄熱病 | ・ アフリカや中南アメリカの 間で黄熱予防接種証明書を必要とする国<br>・ 到着10日前まで、国立医療院や検疫所に依頼 | | 1回、10年毎に再接種 |
| 髄膜炎菌 | サウジアラビアの聖地巡礼。到着10日前まで | | 1回、結合ワクチンは5年毎に再接種 |
| **発展途上国へ旅立つとき推薦される予防接種** | | | |
| A型肝炎 | 発展途上国の全国家 | 免疫のない全ての旅行者 (特に30歳以下) | 2回 ( 0、6~1カ月) |
| 腸チフス | インド、パキスタン、バングラデッシュ、ネパール、フィリピン、パプアニューギニア | 2週以上の旅行をする場合や田舎を旅行する人 | 1回、2 年毎に追加接種 |
| 髄膜炎菌 | アフリカ中部の諸国、サウジアラビア | 宣教または医療ボランティア活動 | 1回, 5年後再接種 |
| 水痘 | 発展途上国の全国家 | 免疫のない一部 30代以下の旅行者 | 抗体検査が必要 ; 2回 (0、1~2カ月) |
| はしか/おたふく風邪/風疹 | 発展途上国の全国家 | 免疫のない一部代旅行 | 抗体検査不必要; 1回 |
| 狂犬病 | 南アメリカ、メキシコ、アジア | 動物研究、1ヶ月以上、田舎の旅行やボランティア活動 | 3回 |
| 黄熱 | アフリカや中南米の黄熱発生地域 | ジャングル探検家 | 1回、国立保健所や検疫所に依頼 |
| ポリオ | インド、パキスタン、アフガニスタン、ウズベキスタン、タジキスタン,ナイジェリアを含むアフリカ | 田舎の旅行 40歳以下の成人 | 1回 |
| インフルエンザ | 南半球 | 夏に旅行するインフルエンザ高危険群 | 1回 |
| **通常の観光旅行でない場合に追加される予防接種** | | | |
| ダニ媒介性脳炎ウイルス | ロシア、東ヨーロッパ | 森林での夏の活動 | 国内にはワクチンなし |
| コレラ | | 難民保護所でのボランティア活動 | 経口ワクチン (Dukoral)が望ましい |
| **旅行を契機に免疫状態を検査するか投与する予防接種** | | | |
| 標準予防接種表参照 | | | |

- **この推奨表と変更事項に関しては大韓感染学会のホームページ (www.ksid.or.kr)でご覧になられます。**